

ものづくりで「共生」を実現する「グリーンプラットフォーム」

「環境保証ができなければ作る資格がない」――

キヤノンが環境対応を明確に企業活動の重要なファクターに位置付けたのは、今から30年以上前のことだ。それからたゆまぬ業務改善と技術開発を続け、脱炭素・資源循環の取り組みを着実に前に進めてきた。これらの取り組みをさらに推し進めるための技術基盤を「グリーンプラットフォーム」と位置付け、さらなる極みを目指すキヤノン。郡司典子執行役員に今後の展望を聞いた。

理念から35年、一步一步前へ

資源生産性を最大化

――持続可能な社会の構築は、全ての企業にとって重要な責務となっています。

「キヤノンは1988年に『共生を企業理念に掲げ、すべての人々が文化、習慣、言語、民族、地域などの違いを超えて互いを尊重し、幸せに暮らせる社会を目指しています。1993年には人類共通の課題である地球環境保護に企業として貢献するための『環境憲章』を制定しました。キヤノングループ全体で『資源生産性の最大化』を重視し、製造業が重視する『Q=品質』『C=コスト』『D=納期』に環境の『E』を加えた『EQCD思想』を基本方針に掲げています。憲章のもと、より多くの価値をより少ない資源で提供し、豊かな生活と地球環境の保護の両立を目指してきました」

――最も重視している取り組みは何でしょうか。

「製品ライフサイクルの各ステップで取り組みを極めています。1990年に他社に先駆けてトナーカートリッジのリサイクルを開始し、2022年時点で累計約45・4万トンの使用済みカートリッジを回収しました。1992年からは回収したオフィス向け複合機を新品同様に生まれ変わらせるリマニュファクチャリングを推進しています。現在、稼働しているリサイクル工場は、日本をはじめ米、独、仏中の5拠点に広がっています。また、使用に伴う汚れを抑制すること、回収・再生がしやすいトナーのリフィルを取り組み始めました。さらには、回収されたポリエチレンテレフタレート（PET）資源を活用し、独自の配合・製法でリサイクルPET樹脂の強度などの性質を回復させた再生プラスチック技術の開発も進めています」

「ものづくり企業として脱炭素・資源循環の実現に貢献することを重視しています。製品のライフサイクル全体、つまり製品の企画・開発段階から、設計、調達、生産、物流、販売・サービス、使用、回収・再利用に至る全てのステップで、二酸化炭素（CO₂）排出量を把握し削減に努めています。2008

――具体的にとどのように改善しているのですか。

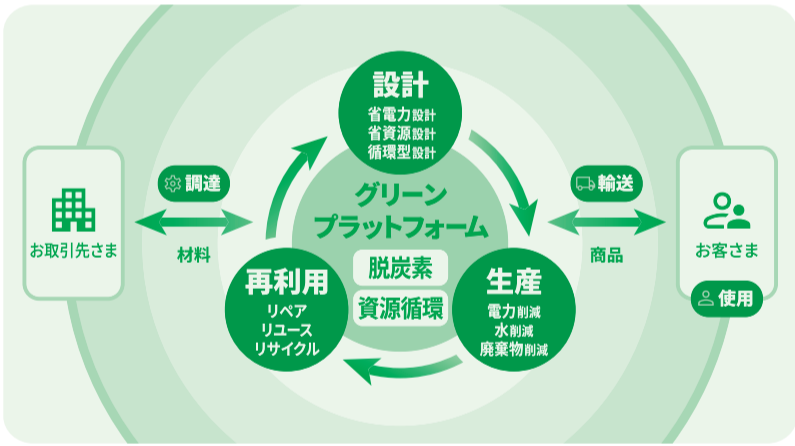
「製品ライフサイクルの各ステップで取り組みを極めています。1990年に他社に先駆けてトナーカートリッジのリサイクルを開始し、2022年時点で累計約45・4万トンの使用済みカートリッジを回収しました。1992年からは回収したオフィス向け複合機を新品同様に生まれ変わらせるリマニュファクチャリングを推進しています。現在、稼働しているリサイクル工場は、日本をはじめ米、独、仏中の5拠点に広がっています。また、使用に伴う汚れを抑制すること、回収・再生がしやすいトナーのリフィルを取り組み始めました。さらには、回収されたポリエチレンテレフタレート（PET）資源を活用し、独自の配合・製法でリサイクルPET樹脂の強度などの性質を回復させた再生プラスチック技術の開発も進めています」



キヤノン株式会社 執行役員 サステナビリティ推進部長 郡司 典子

2016年にキヤノン株式会社執行役員就任、Canon Singapore Pte. Ltd. 社長を経て2021年より現職。現在は経団連の企業行動・SDGs委員会の企画部長も務める。

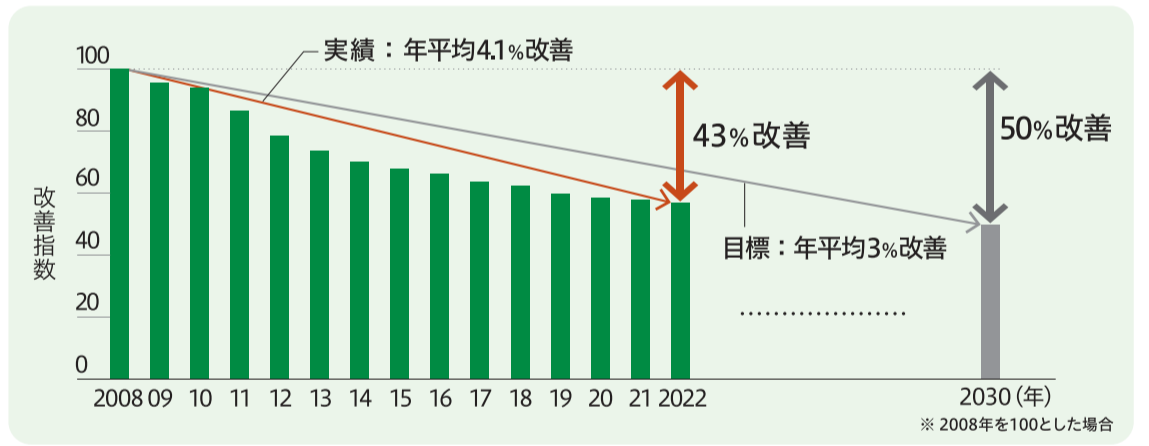
「設計段階での取り組みは、製品の省エネ・省資源を大きく後押しします。独自に構築したシミュレーション技術群を活用し、例えば機器の内部の伝熱や気流を詳細に解析し最適解を導き出すなど、省エネ化や小型化を高度に実現しています。モノを実際に試作して検討や確認を行う従来の方法から、モノを試作しないフルデジタル設計への移行も推進しており、試作に使うエネルギーも最小化しています。生産工程では、用途ごと



キヤノンのグリーンプラットフォーム



キヤノンエコテックパーク



ライフサイクルCO₂製品1台当たりの改善指数の推移

Future Focused. Always.
未来の可能性を、ひろげ続けよう

Canon EXPO 2023

「Canon EXPO 2023」は、キヤノングループの目指す方向性を示す展示会です。時代の要請やビジネス環境の変化に適切に、事業ポートフォリオを大きく転換しつつあるキヤノンの姿や、最新の製品やサービス、それを支える技術、社会へ貢献するソリューションを展示します。さらに、それらの技術を活用した新領域での取り組みも紹介します。ぜひこの展示会でパワーアップしたキヤノンを体感してください。

【Canon EXPO 2023開催概要】

日時：2023年10月19日(木)・20日(金) 10時～18時(最終入場17時)

場所：パシフィコ横浜ノース 神奈川県横浜市西区みなとみらい1丁目1番2号

※来場には、事前申し込み(無料)が必要です。 来場登録はこちらから

「共生」の経営理念制定から数えれば35年間、休むことなく一歩一歩、環境負荷低減のチャレンジを続けてきました。これらの環境技術基盤を「グリーンプラットフォーム」と位置付けて、キヤノングループの全ての事業の製品競争力向上に活用しています」

――長年の取り組みで、環境技術は飛躍的に進化したのですか。

「日常生活から環境配慮

――環境技術基盤「グリーンプラットフォーム」の考え方も、複合機やレーザープリンターの省電力・省資源設計、資源循環を促進する設計、工場での電力削減など、設計・生産・再利用の具体的な取り組みをご説明します。さらに、『Minimum Energy 360』に込めたメッセージを詳しく紹介します。ぜひ、展示会場へお越しください」

「社内では新たに『Minimum Energy 360(ミニマム・エナジー・スリーックスティ)』を合言葉とし、改めて全社で脱炭素・資源循環の取り組みを強化します。『360』は『全方位』という意味を込めており、バリエーションのあらゆる場面で、それを最小のエネルギーで行えるようにすることを目指し続けることに、社員一人ひとりが日々の生活から環境保全を意識してほしい、という思いが込められています」

――10月に「Canon EXPO 2023」が開催されます。

「環境技術基盤「グリーンプラットフォーム」の考え方も、複合機やレーザープリンターの省電力・省資源設計、資源循環を促進する設計、工場での電力削減など、設計・生産・再利用の具体的な取り組みをご説明します。さらに、『Minimum Energy 360』に込めたメッセージを詳しく紹介します。ぜひ、展示会場へお越しください」



make it possible with canon